

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370105235		
法人名	(株)アイリーフ		
事業所名	アイリーフ当新田		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	平成 31年 2月 12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成31年2月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年、無事に15周年を迎えることができました。これまでたくさんの利用者様・ご家族様と出会い、貴重な経験をし、たくさん勉強させていただきました。最近は利用者様の重度化・高齢化がすすみ、以前のように一緒に食事を作ったり、作品を作ったり、外出することが難しくなってきましたが、できることを少しでも長く続けてもらえるように、そして利用者様一人一人のペースを大切に、楽しく穏やかに過ごしていただけるように心掛けています。  
 今年は利用者様・ご家族様・主治医等への関わりの大切さを改めて考え、今までよりも情報交換がスムーズで的確に行えるように取り組んでいます。今までの経験を活かし、これからも利用者様やご家族様、そして地域の方々に安心して頼ってもらえる事業所にしていきたいです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員がマンネリ化することなく「よりよいケア」を常に目指して頑張っていることが良く分かる。施設内は丁寧に掃除も行き届き、整理整頓されている。職員がとにかく明るく、利用者の面白さを上手に引き出し、笑顔や笑いに繋げている。面白さを作っていくことの伝統を受け継いでいるので、笑顔や明るさだけでなく、職員の方々のやる気の熱意が感じられる。長年入居されている利用者は「ここにいる楽しい。家族もいないし、出来んことを考えても仕方ない。いらぬことは考えないんです」と笑顔で話し、自分の趣味を楽しんでいる。又、お米を自社生産しており、それを提供している。手作りの食事を大切にしており、食事作りの匂い・音を聞きながら「今日のご飯はなんじやるう?この匂いは和食じゃねえな」等と会話しながら昼食準備を手伝っている姿が自宅と同じように感じた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念や施設理念はホールに掲示しており、会社内での全体研修に全員参加し、理念を共有し、実践できるように努めている	年に1回会社全体で、理念の勉強会を実施している。今年からはパートも参加している。個人目標を立て、一定期間を経て評価する仕組みも作っている。	法人の理念をふまえて、職員が自らの目標を設定し、自他共に評価しあう伝統が引き継がれていてとても良い。今後も継続して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が気軽に参加できるテーマを考え2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している また町内のお祭りに積極的に参加して知名度アップに繋がったり、週1日地域のボランティアさんが来てくれている	昨年は、町内のお祭りに1回参加した。職員の数的な都合で、お好み焼きの提供は十分ではなかったが、大変好評だった。今後も継続していく予定。又地域のボランティアの方が行事以外でも毎週訪問してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で話をしたり、町内の回覧板で施設行事の案内やかわら版を載せ、情報発信を行っている 散歩や行事参加時に地域の方と触れ合い、理解していただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の興味のある勉強会などを開催したり、現状報告や意見交換を行っている 参加した方からの意見や要望は職員で共有し、サービス向上に繋げている	参加者から「これが知りたい」等の話はあまり出ないため、「職員側から知ってもらいたいこと」をテーマにあげて、勉強会も兼ねて実施している。平日開催時には、市の担当者の参加もあり指導や助言をもらっている。	民生委員など地域の人や家族の参加もあるので、リスク面の報告もして意見を頂き記録しよう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、施設の現状報告をし、アドバイスをもらっている	昨年7月の豪雨災害の後は、災害についての取り組み方のアドバイスをもらった。グループホームが直接指導を頂くことは少ないが、法人としての連携を市の担当者によく取り指導してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員を設置し、身体拘束廃止に関する指針を作成している 定期的・または緊急時に話し合いを行うようにしている	運営推進会議でも、市の担当者から身体拘束をしないケアについて指導があったり、職員間で研修をしている。「ちょっと待って」等、職員が何気なく声掛けしていることに関しても、言葉の拘束にならないか見直しをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行ったり、カンファレンス等で話し合いを行い、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員で学ぶ機会は作れていないが、今後勉強会の開催を検討中		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに対する指針、利用料金、リスク等について話し合いを行い理解に努めている また随時、不安や疑問を伺うように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・ケアプラン更新の面会時など話し合える機会を設けている 意見箱の設置や年1回ご家族にアンケートを実施し、意見は職員で共有し改善に努めている	施設アンケートや運営推進会議、家族会の中でも色々な意見が出ている。例えば「災害時にLINEを使用してはどうか」との声もあり、今後の検討課題にしている。	家族会等の参加人数を増やす工夫を家族にも相談しながら検討してみてください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回合同カンファレンスを行い、意見交換や提案を聞く機会を設けている 個別でも意見等が言いやすいように工夫している	カンファレンスとは別に、各階ごとに集まり提案したり、勉強会として情報共有している。又、管理者と一緒に振り返りを年に2回実施している。各委員会や業務の提案はよく出ており、個人のMVP賞等評価もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、年間目標を作成し、それに向かい努力している また2ヶ月ごとに個人目標を立て、その結果を職員が投票してMVP賞を決めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会は定期的に行っているが、外部への研修への参加が少なかったため、来年度は各職員にあった研修への参加を検討している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	改善コンクールに参加し、他事業所の取り組みをみて参考にできることは取り入れている 2ヶ月に1回、他グループホームの管理者が集まり、情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から困っていること希望はもちろん、生活歴、趣味なども聞き安心して過ごせるように努めている。サービス導入後もご本人の話を聞き、安心できる関係づくりを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや困っていることを傾聴し、理解に努めより良い関係作りを行っている。また、話しやすい雰囲気や場面作りも行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のご様子や要望、ご家族の意見などから情報収集を行い、必要なサービスを見極める努力を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」や「したいこと」を見極め、お互いに協力して支え合っている 「できること」が少しでも長く続けられるようにサポートしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の家族レターや行事に参加していただき利用者の生活の様子を知ってもらうように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から情報を集め、外出支援に繋げたいと思っているが少なくなっている	全体的に重度化してきており、今までの様に墓参りや遠出は出来なくなってきている。天気の良い日は近場で散歩を楽しんでもらっている。	このホームの歴史として、近隣の人との馴染みの関係は、続いていると思うので良い季節には、家族の協力も得て支援を続けて下さい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の様子や状況を把握し、ユニットの枠に縛られず、会話やレクリエーションを通して孤立しないで過ごせるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、行事の案内をしたり、一周忌には手紙を送っている 先方からお誘いの連絡もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別のケアカンファレンスやご家族との面談、日々の利用者の状況や気持ちを書き留めて、ご本人の希望や思いを把握し、希望が実現できるように努めている	ケアプランの更新時に面談をしたり、面会時にその都度気になることを聞いたりしている。本人には日常的にスタッフがおしゃべりの中で聞いている。話せない人は、表情から汲み取り、家族に伝えて一緒に相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を集め、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子や変化を申し送りノートや介護記録に記録し情報共有している 看護師との連絡ノートもあり、医療面でのアドバイスももらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活から希望や思いを聞き出した り、ケアプラン更新時にはご本人・ご家族・職員とで話し合い、現状にそった介護計画を作成している	職員の思いを家族に伝えると、そのままプランになることもあるので、状態によっては生活の中で食事の時や・入浴中の話の中から取り入れて見直ししながらプランを立てている。	家族への便りの中の本人の言葉は、家族の心にも繋がっていると思う。今後も、本人の言葉の拾い方を研究して、ケアプランにも繋いで下さい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス、申し送りノート、介護記録に利用者の変化やご家族面会時の様子等を記入して職員間で情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食や買い物等の外出支援など、その時に必要な支援をできる限り行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を収集して、その情報の中から利用者の生活の質の向上に繋げられるよう取り組んでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人やご家族の意見を尊重して適切な医療を受けられるように支援している またご家族の不安や疑問等があれば、主治医と話をする場を設けるようにしている	このホームは以前から、医療に関する支援を重視しており、医療と介護の連携・協働はよく出来ている。本人だけでなく家族の希望のかかりつけ医が増えていて、受診は施設で対応していることが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化には、看護師へ報告・連絡・相談を行っている 異常が発生した場合は、24時間対応で電話連絡を行い、適切な看護を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはできる限り面会へ行き、病院関係者から情報収集を行い、利用者の情報把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入居時に説明を行い、時期が来たら改めてご家族・主治医・職員で話し合いを行い、利用者が安心できるよう連携をとっている	昨年は、2階では看取りは3名であった。今までで20数名の看取りを行っている。利用者のレベルが下がってきている確認が取れると、主治医より家族に病状説明を行い、再度どうするかの確認を取るようにしている。ここでは看取りを希望する家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED・心臓マッサージ等の緊急時対応の勉強会を随時行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に避難マニュアルを掲示し、年2回避難訓練を行っている 水や食料などの備蓄も準備しており、緊急時に避難場所として施設を開放することを地域の方に伝えている	昨年の西日本豪雨の災害から一段と災害対策が具体的になり、細かい事まで気を付けるようになってきている。例えば、施設横の用水路が溢れると2階へ避難するように決めている。又近所の一人暮らしの方たちには、このホームを避難場所に利用してもらうように伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格等の情報を職員間で共有して、人格を尊重した親しみやすい声掛けを心掛けている	その人それぞれが、分かりやすい言葉で声掛けしたり、距離感をつめ利用者が笑顔になるように、気を付けている。トイレへの誘い掛けや入浴時のプライバシーや羞恥心への配慮も心掛けている。	職員が笑い、利用者も笑顔が多く、時にはざっくばらんなやり取りが気になる時は「家族会」等で、どのように感じるか参加者の反応を聞いてみよう。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より希望や思いを言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている また利用者が自己決定できるように選択肢のある声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの要望や希望を聞き、利用者のペースに合わせるように心掛けているが、職員の都合になってしまうこともあるので今後気をつけていきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、その日の天気などもふまえ、その人らしいおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は職員の手作りで出来たてを提供し、月1回お楽しみ昼食や誕生日会では、利用者の希望を反映させた食事を用意している また食器やお盆拭きなどの片づけを利用者に手伝ってもらっている	一緒に食事を作ることは少なくなったが、食べたいメニューを取り入れるようにしている。皆に聞いてみると、ばら寿司や天婦羅の希望が多いが、ケチャップを使った洋食が好きな人も多い。	職員不足で厳しい状況ではあるが、今後も出来る限り、手作りの料理を楽しんで下さい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調を配慮して、食事形態や食事量を調整している 水分は危険なく飲んでいただけるよう、声かけや飲み物の種類、水分の取り方の工夫に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に応じた口腔ケアを行っている また歯科より指導してもらったり、定期的にチェックを行って、清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄時間を考えトイレで排泄できるように誘導したり、自尊心に配慮した声掛けを行っている オシメを使用していた利用者が布パンツに戻すことができた	オシメやパットの使用量が増えてくると、トイレの声掛けの時間を変えたり、各種のパットを用意し、試行錯誤しながら色々な事にチャレンジした。その努力の結果、よりよい支援が出来るようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給では朝牛乳をお出ししたり、運動や腹部マッサージなど利用者それぞれの体調に配慮した対応をしている どうしても解消できない場合には主治医や看護師との連携を行い薬の調節をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴を行っている 曜日や時間帯は決まっているが、利用者の希望があれば柔軟に時間や曜日の変更をしている	入浴の嫌いな方はいない。重度化の為、湯船に浸かれない方にはシャワーだけでも満足していたできるように工夫している。新しいスタッフも入り、他の施設でのやり方など今後取り組んで行き、機械浴以外での方法も考える予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの気分や体調に配慮して自由に休んでもらっている 昼夜逆転しないように時間や居室の温度や湿度にも気をつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の既往歴を理解し、薬の作用について主治医や看護師からの説明を受診ノートや申し送りノートを使い、情報共有している 配薬ミスをなくすため、職員による声出し確認やダブルチェックを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や興味のあることを把握して、外食や塗り絵、畑仕事や家事等、個性を活かせる楽しみを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて、外食や買い物に出かけられるように努めているが、普段はなかなか行くことができていない お正月は初詣にお連れし喜ばれた	以前は、毎月のように出掛けていたが、現在は職員の人数の関係で難しくなっている。外食や買い物、近所の散歩は継続できている。これから良い季節になるので、外に行く機会を増やして行こうと思っている。	家族の中で、少しでも応援していただける方には「ちょっと外出」をお願いしてみてもうかがう。例えば、ドライブとか車椅子で近くを散歩してみる等お願いしてみても下さい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族もしくは施設で管理している希望があれば一緒に買い物に行き、好きな物を買っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者やご家族の要望に応じ、電話や手紙でのやり取りを行えるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる壁面の作成や週1回新鮮な花を活けて、利用者の五感に訴えかける居心地よい空間づくりをしている	毎週新しい花を活け玄関に飾ったり、リビングや玄関のあちこちに利用者の作品や、生活の場面が伝わってくる写真・掲示物でこの生活の状態がよく分かる。又、職員の利用者への愛着や「ここでの暮らしをよく見て下さい」という思いが伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人が好きな場所で落ち着いて過ごせるように、ソファや椅子の高さ、テレビの位置を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや写真等を用意していただき、居心地よく過ごせるように努めている	どの居室からも、それぞれの家族や職員の深い想いや愛情が伝わってきて、私の心も温かくなった。居室にボードを置き、毎月の利用者の写真と行事予定・受診日など記載しているので面会に来た家族も分かりやすい。職員・本人・家族との情報共有になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレだとすぐ分かる表示や声掛け、また安全な動線を確認し、利用者が混乱しないように工夫している		